

原子力規制委員会記者会見録

- 日時：令和4年7月20日（水）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 13階B・C・D会議室
- 対応：更田委員長

<質疑応答>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから7月20日の原子力規制委員会定例会見を始めます。

皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

ハセガワさんお願いします。

○記者 NHKのハセガワです。

浜岡の審査の関係で伺います。プレート間地震の上昇側について、中部電力が示した独自モデルで22.7メートルというものについては、異論なく審査側としても理解できたというような感触でした。そのことについて、さらに海底地滑りなんかとの組合せで、さらに高くなる可能性もあるというふうなことではあるんですけども、ここまで至ったことについて、時間はかかったがというところではあるんですが、まだ途中経過ではあると思うんですが、その辺りの感触はいかがですか。

○更田委員長 御質問の中にもありましたけども、まさに途中経過という段階だと思います。ですから、独自モデルに基づいた波高値に関して、双方の大きな異論がないところまで来たというのは、一段階進んだということではあるんだろうと思いますけど、ただまだ設計基準津波高さが決まったわけではありませんので、そういった意味では、議論の中での小さな一つのステップだというふうに捉えています。

○記者 その上で、この現時点で22.7メートルということで、現時点での防波壁を超えてくるというような状況になっているということで、構造上の課題であったりとかプラント審査でもいろいろ議論すべきところが、さらに高さを上げるところとかその辺り議論すべきところがあると思うんですが、その後に、ポイントとしてどういうところが考えられると現時点でお考えですか。

○更田委員長 そうですね、かさ増しというのはあれだけの構造物の場合なかなか簡単なことではないので、どういった形式を取るか、これは中部電力の提案を詳しく聞く必要があるでしょうし、その防潮堤の高さを増すということになれば、また一つのこれはプラント側、構造側の話ですけれども、一つの大きな議論の焦点になるだろうというふうに思います。

○記者 そもそもとして、基準津波に対しての防潮堤の高さというのは、それは基準津波を超えるものでなければいけない、規制庁としてはどういうお考えかという、ウェット

戦略というところにも過去に触れたこともあったかと思うんですが。

○更田委員長　そうですね、これまで各サイトで取られてきているアプローチというのは、防潮堤で設計基準津波高さまでのものが超えないようにする。その上で、ハザードカーブにもよるわけですが、超過確率を見た上で、念のため越流も考慮するというようなアプローチが取られてきていて、設計基準津波高さを下回る防潮堤でその設計基準津波が来た際には越流してしまうということを前提に、防護戦略を取るという例はありません。そういった意味で、そういった防護戦略に対する議論をしようとする、これはなかなか難しいことになるだろうというふうに思います。

○記者　その難しさというのは、どういうところにあるというふうに……。

○更田委員長　単に構造だけの話ではなくて、越流してくるとなると、現行の重大事故等対策というのは、要員がサイト内を動き回ることを前提としていますので、そういった意味でサイト内に越流してくるといえるときに、要員のアクセス性であるとか、それから重大事故等対処の様々な対処が活動ができるかどうかというのは、これまでにそういった議論をしてきた経緯はありませんので、かなり難しい審査になるんじゃないかというふうには思います。

○司会　ほかに御質問ございますでしょうか。

では、ヨシノさんお願いします。

○記者　テレビ朝日、ヨシノです。

処理水の処分方針について、近々審査書を正式決定することになると思うんですけれども、以前もお伺いしたんですが、一方で汚染水の発生というのは依然止まらずですね。それから、そうなると処理水もALPSスラリーも増え続けると、こういうものに対する対策というんでしょうか、何かお考えがあったらお聞かせください。

○更田委員長　評価ではありますけれども、日量、1日の最大が今後も150m³程度流入があるだろうと。これはあくまで最大の見積りではありますけれども、日量が最大でこのままずっと推移し続けると、検査、分析に、これも一番長く見ると2か月かかると、もし仮にそう考えると、2か月で1バッチだというふうに考えると、150 m³/day流入が続くとなると処理水で大して減っていくことにならない。

ですので、もちろん流入量が見積りの最大であるとは限らないし、それから1バッチの分析にかかる期間も毎回最長の2か月かかるわけではないので、処理水が減っていくことには間違いないんですけども、さらに、作業を順調に進めるためには、流入を抑えるというのは当然のことながら重要になってきますけれども、流入を抑える方策として、これは規制側から先に申し上げることではないかもしれませんが、以前から申し上げているように、建屋底部に、床に滞留している水の放射性濃度が一定以上低くなってきた場合には、固めるということが大いに、これは海水配管トレンチで取った手法ではありますけれども、一定程度水が溜まっている状態で固化させる、コンクリートを流し込

んで固めるというような方策は必要だろうというふうに思っています。

○記者 あのときは、監視評価検討会で委員長がまさにそれを仕切って議論をされていたと記憶しておりますが、要するに非浸水性の、放射性物質を含んだ水に溶けないコンクリートを流し込んで、放射性物質を含んだ水を排除しつつ固めると、こういうことを、ではPCV（原子炉格納容器）の中でも行うということなんでしょうか。

○更田委員長 議論になるだろうことは、完全にということにはできないので、コンクリで固めた場合というのは、微量ではあっても放射性物質が残ることになりますので、それは長期間安定させた後に廃炉作業が進んだ上で改めて研るとか、そういったことが必要になってくるとは思いますけれども、これも必ずしも技術的なことばかりではなくて、理解を得るプロセスを丁寧にやる必要があると思います。ごく微量ではあるけれども、そこで放射性物質を固定させることになるので、これは関係者間での丁寧な議論が必要だろうというふうには思っています。

○記者 私は最後にしますけれども、そうすると、今おっしゃったことが実現すると、恐らく汚染水の発生も大きく抑えられ、それからALPSスラリーの発生も抑えられると、こういうふうにもそう思うんですが、そういうふうになるということですよ。

○更田委員長 早く、地下水が流入してくる水位よりも、床を上を上げてしまうということが大事だというふうに思っています。流入口を、例えばドライアップ、今の床の高さのまま水をくみ上げて、流入してくるところを塞ぐということは余り現実的ではないように思っています。現在も流入口が明確に捉えられているわけではありませんので、これはあくまで今の時点では私の考えですけれども、床を上げてくるという、そういう方策を取らざるを得ないのではないかとこのように思っています。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問ございますでしょうか。

では、新潟日報、エンドウさん、お願いします。

○記者 新潟日報、遠藤です。

岸田総理の会見での発言について伺います。改めてですが。木曜日の岸田総理の会見で、この冬に原発最大9基の再稼働をするという方針を示しました。委員長として、率直にどういうふうに受け止められたのかということをお教えください。

○更田委員長 極めて率直に申し上げますけれども、まず総理の指示は経済産業大臣に対して行われた指示ですので、これについて見解を申し上げる立場にはありませんけれども、私たちとしては私たちの責任をしっかりと果たしていくこと、要するに検査が主なものになると思いますけれども、これを規制当局の役割としてしっかりと果たしていくこと、これに尽きるというふうに思っています。

○記者 分かりました。確認なんですけれども、再稼働済みの9基ということで、規制委員会への指示ではないとはいえ、総理の発言というか方針というのは、規制への影響とい

うのは特段ないというふうに考えてよろしいでしょうか。

○更田委員長 やるべきことをきちんとやるという、これに尽きると思っています。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問ございますでしょうか。

では、ヤマノウチさん、お願いします。

○記者 電気新聞のヤマノウチです。

ICRP（国際放射線防護委員会）2007勧告の国内制度取り入れですね、放射線業務従事者に対する男女の線量限度の斉一化の検討がなかなか進んでいませんが、この議論の難しさはどの辺りにあると思いますか。

○更田委員長 これは、どうなんだろうな。多分、インセンティブがあんまり働いてないようにも思うんです。取り入れることによるメリットが強く認識される状況にはないというふうに思っていますので、それが取り入れの方向そのものは決まっているものの、具体的な国内ルールへの取り入れが進まない理由というのは、前へ進めようとするインセンティブに欠けてる状況にあるんだろうというふうに思っています。

○記者 分かりました。ありがとうございました。

○司会 ほか、御質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは本日の会見は以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—